

<報道発表資料>

平成21年 5月20日

まちづくり施策

圏央道・北本中丸9丁目地区に「江崎グリコ(株)新工場」が進出

このたび、平成24年度を開通目標としている圏央道桶川インターチェンジ（仮称）直近の北本市中丸9丁目地内において、「田園都市産業ゾーン基本方針」に基づく第3次先導モデル地区として、江崎グリコ株式会社の新工場に係る立地調整が整い、企業が進出する環境が整いました。

この先導モデル地区は、単独企業による圏央道沿線における最大規模の立地であり、企業のニーズを踏まえた計画開発により実現するものです。

●先導モデル地区

1 先導モデル地区名

北本中丸9丁目地区

2 先導モデル地区の概要

- ・場 所：北本市中丸9丁目地内
- ・開 発 面 積：約12ha
- ・開 発 手 法：地区計画による民間開発（都市計画法第34条第10号）
- ・立 地 企 業：江崎グリコ株式会社（食料品製造業）新工場
- ・最寄りIC：圏央道桶川インターチェンジ（仮称）

※1 ●事業スケジュール

平成20年5月	当地区における農業振興地域整備計画の変更手続き開始
平成21年3月	当地区における地区計画の都市計画決定
平成24年中	立地企業の新工場操業開始（予定）

●立地の主な特徴

1 企業ニーズを踏まえた計画開発

当地区は全国で初めて、市街化調整区域に地区計画を策定することによって、企業ニーズを踏まえたオーダーメイド型の計画開発、企業立地を実現します。

今後は、立地企業と県・市との官民連携により、地区計画の内容を実現し、ゆとりとチャンスに満ちた田園都市づくりを推進していきます。

2 豊かなみどりの創出による田園環境との共生

地区内の外縁部に屋敷林をイメージした高木植栽帯を設けます。高木の植栽本数は1000本以上、緑地全体の面積は3ha以上となります。

豊かなみどりを配置することにより、周辺の田園環境との調和がとれる景観を創出します。

3 スピーディな土地利用調整により、企業立地調整を1年で実現

100年に一度とも言われる経済危機が県民の生活や事業を直撃しています。

このような状況の中、県は県民生活の安定と経済の活性化のため全力で必要な対策に取り組んでいます。

当地区における立地企業は、地域経済や雇用など、県民生活の向上に大きく貢献することから、県としてもスピード感ある企業立地調整を進めてきました。

結果、各種法令に基づく土地利用調整をほぼ1年間で行い、スピード感ある企業立地調整を実現しました。

※2 参考(先導モデル地区の実績)

先導モデル地区	地区名	事業面積
第1次	川島インターチェンジ北側地区	約 47ha
	菖蒲白岡インターチェンジ(仮称)地区	約 19ha
	川越工業団地拡張地区	約 19ha
第2次	騎西国道122号沿道地区	約 19ha
計	4地区	約104ha